

ROTARY INTERNATIONAL
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

OFFICE OF GOVERNOR OF DISTRICT NO. 366

YOSHIYUKI OKAJIMA

c/o NICHIMEN CO.,
P. O. BOX CENTRAL NO. 18,
OSAKA, JAPAN



NO. 14

(June 30, 1966)

ガバナー月信

第14信 (昭和41年6月30日)

第365区ロータリークラブ

会長並びに幹事殿

国際ロータリー第365区ガバナー

岡島美行

ガバナー事務所

大阪市北区中之島2丁目15番地
日綿実業株式会社内(6階)
電話直通大阪(202)0006
日綿実業大阪(202)2271

任期満了に際しご挨拶

On Completing Term of Office

会長並びに幹事の皆様に ガバナー月信の最終版第14号をお届けします。本日を以って私の任期も満了することになりますが、過ぎ去った1年を顧みますと寔に多忙な日々で、文字通り東奔西走、席の温まる日も無い有様でしたが、大過なくガバナーの任務を果たし得ましたことは先輩ガバナーのご指導と会長、幹事殿初め会員諸兄のご協力とご支援による所とここに心から感謝の意を表します。

この1年間を顧みて最も私の印象に残ったのは昨年7、8月の酷暑の頃から本年1、2月の厳冬肌を刺す季節まで、各地のクラブを公式訪問して、各位に親しく接し、膝を突き合わせて懇談する機会を得たことであります。私としても率直に忌憚のない意見を申し上げ、気付いた点は直言する事もありましたが、お互いにロータリー発展のための大局的見

地から卑見を能く容れて下さり、又常にロータリー精神の友愛と奉仕の真心を以って温く迎えて下さったことを感激して居ります。また、公式訪問及びその間に挟まれた9回に亘るインターシティ・ジネラル・フォーラム及び各地のクラブでの創立記念式典に参加の機会に於て多くの知友を得たことを感謝して居ります。

昨年の秋京都で催した西日本地区連合大会がR.I.会長代理 ペンギル氏 夫妻を迎え、各地から多数の参加を得て盛大に行われたことも印象深い出来事の一つでありました。

1965~66年度のR.I.ティーンストラ会長の方針として特に国際理解と協力を一層推進するために提案せられた4つのプログラムの中、組み合せ地区プログラムに就いては相手地区と定められたデンマーク及びアイスランドからの返答に暇取ったため、クラブの組合わせ発表が遅れクラブ間の文通その他の接触も漸く昨晩秋頃から始められましたが、その後次第に軌道に

乗って居る様で、今後も引続き接触を深められることを切望します。また財団活動拡大の一環として当年度からいろいろの新らしい計画が創設されその一である「専門的訓練のための補助金」に関するプログラムに就いては当地区からは2名(最大限度)の候補者をR.I.本部に推薦しましたところ 選考の結果109名の候補者の中より40名のみが入賞することとなり、当地区推薦の候補者2名もその選に入りました。

また「研究グループ交換」のプログラムに就いても幸い当地区の申請が入選し、組合せ地区となったカリフォルニア州の第522区へ当地区より先ず6名のチームと1名のロータリアン・リーダーを1966~67年度中に派遣することとなり、これの準備は委員会を中心に着々進められております。またポール・P・ハリス賞に就いては予て田辺R.C.の計画を本部に推薦しましたところ、首尾よく選に入ったことが6月初めのLake Placid に於ける国際協議会に於て発表され北村 ガバナー・ノミニが代表して褒状を受けられお持ち帰りになりました。

財団資金による普通奨学生も当年度は当地区から選出し得る年に当りましたので既に1名を推薦し同時に追加奨学生も2名の候補者を申請しました。

地区拡大、即ち新クラブ増設計画に就いては4~5の候補地を定め委員や特別代表の方々のご協力を得て鋭意努力を続けたのですが、近来稀に見る綿業界の不況、都市統合に関する政治的動向その他の事情により遂に任期中にR.I.本部の認証を得る段階に至らなかったことは甚だ遺憾に思っています。只この中、和歌山県那賀郡粉河他5町村を中心とする粉河クラブが愈々7月中旬結成の運びに到る予定でありますことと、昨年秋堺市立工業高校内にインターアクトクラブが結成されたことはせ

めての慰めと存じ居る次第であります。然しインターアクトクラブも他地区に比し遅れて居りますから、今後この方面に於ても一段の努力が要請されます。

私はクラブ運営の方針の一つとして、出席率の維持向上、会員の増加、新旧会員の融和と会員間の親睦並びに会員の若返りを強調し、更にバランスの取れた計画を作り、一步一步地味な活動を辛抱強く積み上げるロータリー精神の遂行を高唱して参りましたが、幸い会員各位が能く協調して下さい、今後共この方向に一層精進を続けて下さることを期待して居ります。その現われの一端とも申しませうか当地区全クラブの上半期(1965年7月~12月)の出席率平均は95.38%と、前期1カ年(1964年7月~1965年6月)の平均率95.36%より稍向上し、下半期(1965年7月~1966年6月)は更に96.06%と向上して居り、1カ年を通じ平均率95.71%と前年度に比し一層向上して居ります。この96.71%は恐らく国内国外を通じて第1位であろうと存じ皆さんと共に当地区の誇りとして御同慶に堪えないのであります。また、地区内会員数の増加は6月末現在の計算では213名であります。

在任中に成さんと欲した事のみ多くして今日任を去るに当り、成し得た事の甚だ少なかりしを憾みに思うのであります。只次期ガバナーとして北村孝治郎氏、また1967~68年のガバナーとして平沢興氏の何れも人格、経験に於て申分無い立派な候補者の選定を見たことと、次年度の地区委員の選任、インターシティ・ジェネラル・フォーラムの段取り、地区大会、地区協議会の決定、更には1967~68年度の地区大会の下準備(候補地、白浜)等進めることが出来たことはせめてもと自ら慰めて居る次第であります。

今後共引続き各位の真摯なる御努力により

第365区ロータリーの益々成長発展することを衷心祈願して居ります。

過去1カ年に亘り 地区委員の皆さんがご多忙の中を貴重な時間と労力を割いて各種委員会の活動に尽粹して下さいたことを深く感謝しました私の良き相談相手として終始ご支援を惜しまれなかった大阪クラブの副会長塚本義隆氏にも深甚の謝意を表します。

小生国際ロータリー職業奉仕コンサルタントに任命さる

I was appointed as R. I. Vocational Service Consultant

6月21日 国際ロータリー 1966~67年会長 Richard L. Evans 氏より電信を以って小生に1966~67年度 R. I. の 職業奉仕 (Vocational Service) コンサルタントになるように依頼がありましたので健康上その他からも不肖その任に非ずと思いましたが、先輩パスタガバナーの方々ともご相談の結果、その御勧告もありましたので任命をお引受けすることに致しました。

任務の内容に就いては詳細な事は未だ判りませんが何れ R. I. よりこれに関する通知があることと存じます。

お引受けした以上微力を尽してその任を果したいと思っておりますので、いろいろ皆さんのご指導とご協力をお願いしなければならぬことと思えますから今後共よろしくお願い致します。

研究グループ交換委員会々合

A meeting of Group Study Exchange Award Committee held on June 15th

1966~68年度研究グループ交換計画に関する当地区の参加申込は受賞の選に入り相手地区はカリフォルニア州 第522地区と決定したことは5月15日附月信で報告の通りであります、当地区より先ず研究グループを1966~67年度中

に派遣することとなりましたので、その下準備のため下記の通り 研究グループ交換委員会が開催されました。

6月15日午後1時30分より3時まで、阪急百貨店8階の一室に於て下記5名参集の上

委員会委員長 絹川 清氏

委員 中村 鼎氏

〃 山口善造氏 (1966~67年委員)

〃 須賀川太郎氏 (1966~67年委員)

ガバナー事務所 小沢友義氏

団員候補者の募集、申込の締切時期、団員及び団長の選考、団員の派遣時期その他に就き協議が行われました。何れ本件に就いては団員の募集をも含め地区協議会その他に於て各クラブ宛に詳細通知される手筈となっております。

米国加州513地区研究グループ来阪

Group Study Team from California visited Osaka

358地区 (東京その他を含む) 受入れの米国カリフォルニア州 第513地区 (サンフランシスコを中心とする) から派遣の研究グループ、Smith 団長以下7名が去る5月2日来日して視察旅行を続けていましたが、大阪へは6月23日到着、正午には大阪東 R. C. の例会にも出席しました。席上私より歓迎の辞を述べ Smith 団長よりは来日以来各地で示された日本ロータリアンの歓待は洵に感激の至りであると感謝の挨拶があり、また団長初め団員の諸君から日本に関する印象と感じに就いて親しく承ることが出来ましたが、それは下記の点に要約されます。

〔(1)戦後の日本の復興と発展の目醒しいこと(2)日本伝統の古い文化財、歴史的背景のある場所や建造物が能く保存されていること(3)教育の普及とよく進んでいること(4)今回の旅